



2023.3.13

瀬戸ひなご幼稚園園長 神戸洋美

自然の脅威の前に

去る3月11日、東日本大震災から12年が経ちました。あの日、あの時間、私は議会があり県庁にいました。丁度、午後休憩で控室にいた時です。大きなゆっくりとした揺れを感じ、何事かと騒然となっていたところに、TVから東北地方で大きな地震とのニュースが流れ、そしてあの津波の映像を見て、さらに大きなショックを受けました。初めて見る信じられない光景でした。亡くなられた方は1万5900人、行方不明者は2523人、ご家族を失われた方々の悲しみは未だ続きます。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

さらに2月6日、トルコ南部で大地震が起き、亡くなられた方は5万人を超え、何百万人の方が家を失いました。生存を信じ、必死で繰り広げられた救出活動で、感動的な場面がニュースで流れました。皆様もご覧になられたと思います。

自然の脅威を前にした時、我々にできることは何もなく、人間の力は本当に微々たるものだということを知られます。でも人間は被害を受けたどん底から、励ましあい、助け合い、復興を遂げてきました。被災地から遠く離れ、直接被害を受けなかった私たちにできることは、1日も早い復興を願ってお手伝いをする事、これらの震災から学んだことを次の災害時に活かすこと、これらの災害を風化させないように語り継いでいくこと、だと思います。

幼稚園では定期的に訓練を行い、地震が起きた時にどのように子どもたちを非難させるのか、いざという時のために備えています。でも訓練はあくまでも訓練。本当に大きな地震が起きた時に、どれだけ冷静に対応できるのか、が問われます。特に小さなお子さんは自分で判断して逃げることができません。担任からの指示でどれだけ子どもたちが素早く動けるか、それは我々教師の冷静さや対応力にかかってきます。また日常の保育から子どもたちとの信頼関係をしっかり築いておくことです。

この1年間、大きな災害も事故もなく、無事に終えることができることに心より感謝です。これまでのお子様の成長に関わらせていただいたこと、日常の当たり前の生活ができたこと等々、全てのことに感謝し1年のお礼とさせていただきます。ありがとうございました。

コロナの3年間を振り返って

今となっては思い出話になりましたが、新型コロナウイルスに振り回された3年間でした。海外からもたらされた新型ウイルスに、どのように対応してよいのかわからず、検温とマスク着用、手洗いや消毒、パーテーションの設置等、必死で対応策を守っても収束へのトンネルは闇のままで、時間だけが過ぎていきました。特にショックだったのは、スクールバスや園舎内の消毒までして感染予防対策をしたのに、子どもたちが感染してしまったこと。全く見えないウイルスになす術がありませんでした。

でもそんな中、このままではだめだと、多くの規制の中で、少しずつできることを試して行こうと前向きに方向転換されました。密を避けるということで、行事の内容も変化せざるを得ませんでした。思い起こせば、我が園でも1年前の卒園式、担任と卒園児数名がコロナ感染で出席できず、担任が自宅からリモートで卒園式に参加しました。欠席だった卒園児のために後日卒園式を行い、結果3回卒園式を行ったのです。あの時はどうしようかと落ち込んでいましたが、今となっては一生忘れられない思い出となりました。

世界のコロナ感染者数を発表していたジョンズ・ホプキンス大学のデータ発表が中止となるそうです。5月の連休明けには、感染法上の扱いが2類であったコロナが、インフルエンザと同類の5類指定感染症に変更されます。ただし、オミクロン株とは異なる変異株が出現する等の場合には、直ちに対応が見直されるとのことです。

春の訪れと共に、やっと暗闇のトンネルから抜け出せる日が近づいてきました。今年度はまだマスク着用を続けます。皆様のこれまでのご協力に心より感謝申し上げます。

